

マルタの三つの幸い

ルカによる福音書 10 : 38 - 42



司祭 ヨハネ 井田 泉

聖霊降臨後第6主日

2025年7月20日

北陸伝道区霊交会

福井聖三一教会にて

「一行が歩いて行くうち、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。彼女にはマリアという姉妹がいた。マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。『主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。』主はお答えになった。『マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。』」ルカによる福音書10:38-42

マルタとマリアの話は、皆さんがよくご存じの話かと思います。だれはマルタ型だ、あるいはマリア型だと言ったりもします。またマルタについて言えば、イエスから「**あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している**」と注意されたことから、マルタは否定的に見られているような印象があるかもしれません。けれどもそれだけの話なのか。むしろここには、マルタに注がれたイエスの深い愛が込められているのではないか。実はマルタは、イエスとの出会いの中で大きな祝福、幸いを経験していたのではないか。今日はそんなふう to この話を読み返してみたいのです。

マルタの祝福、マルタの幸いと言いました。それは3つあると思います。まず聖書の書き出しを読みましょう

「一行が歩いて行くうち、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。」

旅するイエスの一行です。ある村というのはエルサレムの東のベタニアでしょう。そこにマルタ、マリア、ラザロの3人きょうだいの家がありました。ここでまず注意しましょう。マルタはイエスを自分の家に迎え入れました。彼女のこの積極的な行動によって、彼女自身がイエスと深く出会うとともに、妹マリアをはじめ、村の他の人々もイエスと出会うことができるようになりました。イエスを自分の家に迎え入れた。これがマルタの素晴らしいところ。彼女の第1の幸いです。

わたしたちは今日の聖餐式を「主イエス・キリストよ、おいでください」という呼びかけで始めました。マルタがイエスを迎え入れたように、わたしたちもイエスを迎え入れる祈りをもって礼拝を始めたのです。マルタは言わばわたしたちの礼拝の入り口に一緒に立って、一緒にイエスに呼びかけてくれるのです。

マルタの2つ目の幸いは、イエスが彼女の名前を1度ならず2度も呼んでくださったことです。新約聖書の中で2度も名前を呼ばれたのは、サウロ（後のパウロ）以外にありません。

マルタは人への心遣いの深い人です。しかもそれを行動で表す人です。特に今、イエスとその一行を迎えたのですから、精一杯のもてなしをしたい。集まってくれた人たちのためにもできる限りのことをしたい。これもマルタの素晴らしさです。そのため忙しく立ち働いています。ところが妹マリアを見ると、何もしない。じっとイエスのそばで話を聞いているだけです。いらいらが募ってきます。

「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」

非常に正直で率直です。思ったことをはっきりイエスに言う。これもわたしたちがマルタに学びたい点です。

わたしたちはどうでしょうか。自分の抱える葛藤、不満、嘆きをイエスにぶつける。これは大切なことです。これがないと、わたしたちとイエスの関係は、いつまでも改まったまま、疎遠なままになってしまいます。

けれども今は、イエスは何よりもまず自分の話を聞いてほしかった。マリアは、イエスの言葉を聞きたかった。マリアの心は渴いていて、イエスの言葉を何としても必要としていた。それに気づいてほしい。

マルタの心遣いはありがたい。けれども、この家にイエスが

来られて、自然にここに集会が始まった。このマルタの家がイエスを迎えて祈りの家になった。ここに神の国が現れている。それを大切にしてほしい。

「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。」

イエスはマルタを退けられたのではありません。イエスはマルタに心を向けておられます。「マルタ、マルタ」と2度も彼女の名前を呼ばれた。この呼びかけの中に、イエスのマルタに対する深い愛が込められています。けれども妹マリアがみ言葉と祈りを必要としているように、あなたもそれを必要としているのではないか。自分の魂の必要を犠牲にして、いつも人のために働かなくてよい。あなた自身の幸せのために、あなたもわたしのもとで深い安らぎを得なさい。あなたの気持ちも心遣いも、わたしはだれよりも知っているのだから。

このような愛のこもったイエスの呼びかけを2度も受けた。これがマルタの第2の幸いです。

3つ目の幸いです。マルタはイエスにそう言われたことによって、自分のあり方に気づきました。イエスに言われて妹マリアの気持ちを理解しただけではなく、自分もイエスの言葉と祈りを必要としていることをはっきり知りました。今からは、イエスの話に聞き入る幸いを自分も経験します。

それからどれくらいの時が経ったのでしょうか。やがてマルタは、愛する弟ラザロを失うという悲しみを味わいました。イエスはその悲しみのマルタのところに來られたとき、彼女は言いました。

「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょうに。……」ヨハネによる福音書 11:21

この嘆きの訴えをイエスは聞かれた。しばらくマルタとイエスの対話が続きます。そして、マルタはこう言います。

「主よ、あなたが世に來られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。」ヨハネ 11:27

イエスに妹への不満をぶつけ、イエスに注意されて自分に気づき、また嘆きをイエスに訴えた。このような経緯があつて、今、マルタは決定的な信仰告白をしたのです。

「主よ、あなたが世に來られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。」

主イエス・キリストは、わたしたちのためにこの世に來てくださった神の子、わたしたちの救い主。このマルタの信仰告白が先にあつて、わたしたちの信仰を支えていてくれるのです。

その後、ヨハネ福音書にこう記されています。

「過越祭の六日前に、イエスはベタニアに行かれた。そこに

は、イエスが死者の中からよみがえらせたラザロがいた。イエスのためにそこで夕食が用意され、マルタは給仕をしていた。」ヨハネ 12:1-2

やはりマルタはもてなしをしています。けれども、目に見える振る舞いは同じであっても、このマルタは以前のマルタではありません。イエスの思いを受けとめつつ、喜んで働くマルタです。マルタはイエスとの深い関わりの中で成長させられた。祈りつつ働き、働きつつ祈る。これがマルタの第3の幸いです。

マルタはイエスとの出会いの中で3つの幸いを経験しました。第1は、イエスを自分の家に迎え入れたこと。第2は、イエスに2度も自分の名前を呼んでいただいたこと。第3は、イエスとの対話のなかで、祈りつつ働く信仰の人として成長させられたことです。

イエスはわたしたち一人ひとりを見つめて、深く理解してください。わたしたちの長所も欠点も受けとめて、時には注意や訓戒を与えつつ、わたしたちの魂の渇きに気づかせてください。そうしてわたしたちを慰め励ましながら、祈りつつ行動する者としてわたしたちを成長させてくださるのです。わたしたちにも、主イエスの祝福が、幸いが用意されています。

祈ります。

主イエスさま、マルタが自分の家にあなたを迎え入れたように、わたしたちもあなたをわたしたちの間に迎え入れさせてください。わたしの名を呼んでください。わたしたちの名を呼んで、わたしたちを目覚めさせてください。わたしたちをあなたとあなたのみ言葉に引き寄せて、さまざまの思い煩いや葛藤から解放してください。そして新しくあなたを信じて、祈り働く者となるように、励まし力づけてください。世の救い主として来られたあなたのみ名をほめたたえます。アーメン